

令和3年度
～ひとごとではなく、「自分ごと」、「みんなごと」として市民・行政が協働！～
“みんなごと”のSDGs, レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラム業務 実績報告書

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所
代表組合員 東 信史

事業の主な内容

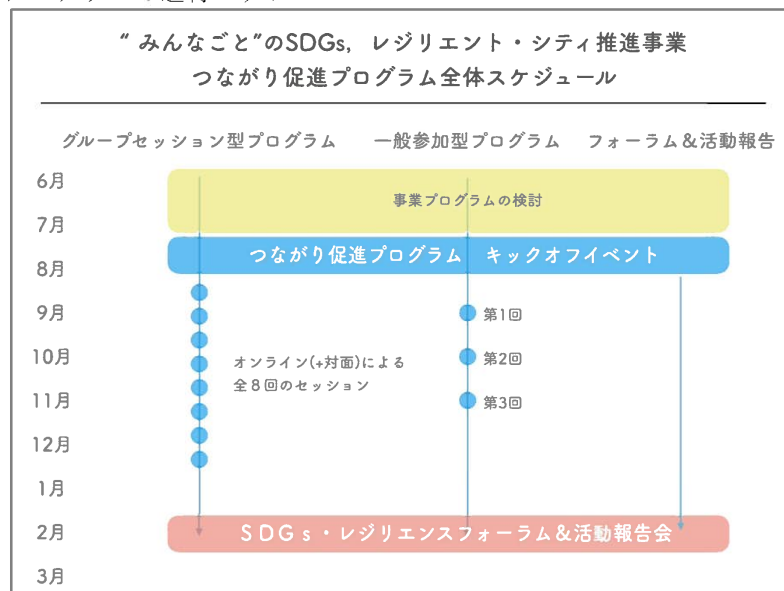
～ひとごとではなく、「自分ごと」、「みんなごと」として市民・行政が協働！～ “みんなごと”のSDGs, レジリエント・シティ推進事業は、広く市民から、「京都がもっとよくなる」「もっと住みやすくなる」まちづくりの取組提案を募集し、「まちづくり・お宝バンク」に登録・公開するとともに、提案の実現に向けたきめ細やかなサポートなどを行う事業である。

本業務は、「つながり促進プログラム」を通じて、多様なセクター（まちづくり団体、NPO、企業、行政職員、大学関係者等）の参加者及び「まちづくり・お宝バンク」取組提案者同士のつながりを促進し、セクター間を超えたつながりづくりを図る人材の養成とともに、社会課題、地域課題の解決に向けた取組実践を生み出すためのサポートを行うものである。

なお、本業務の実施に当たっては、「市民力・地域力をいかした京都ならではの取組」といった観点を取り入れ、独創的なプログラムを構築し、つながりの促進や社会課題解決に向けた取組創出及び京都市全体のまちづくり活動の活性化を図るものである。

(1) 「つながり促進プログラム」の提供

＜全体プログラムの進行スケジュール＞



ア) 一般参加型プログラム

つながり促進を図る人材の養成を目指すとともに、幅広い取組提案者の活動を前進させるテーマを設定し、多数が参加できる講座等を年3回開催した。

また、取組提案者以外の参加者に“みんなごと”のまちづくり推進事業を積極的に広報し、年間10件程度の新規取組提案の提出に繋げるよう工夫した。

<実施概要>

日時	テーマ / 会場	講師	参加数 / 申込数
11/1	より心地よい関係を増やしていくための、グッドアクションの作りかた 会場/オンライン会議システムzoom	高橋博樹 / Takahashi Hiroki 特定非営利活動法人テダス 理事長 吉野 禎央 / Yoshino Yoshio BOUKEN WORKS Inc. 代表取締役	29名 /37名
11/17	情報伝達だけでは終わらない ファンづくりのための広報 会場/オンライン会議システムzoom	潮崎 真惟子 / Shiozaki Maiko 認定 NPO 法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長 島 彰宏 / Shima Akihiro 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 啓発事業部 オンラインマーケティング担当	19名 /30名
12/1	共感の視点から考える、持続可能な アクションのための資金調達 会場/オンライン会議システムzoom	山下 正人 / Yamashita Masato 京都中央信用金庫 地域創生部地域創生課 課長 岡本 卓也 / Okamoto Takuya 日本ファンドレイジング協会関西チャプター 共同代表	21名 /29名

▶各種公開講座 つながり促進を図る人材の養成のための講座-

2021年度のつながり促進プログラムの公開講座では、全3回のプログラムを通じて「つながり促進を図る人材の養成」と「企画づくり、広報、資金調達」をテーマに、現場での実践者たちをゲストに迎えながら、活動を促進していくために必要な関係性づくりや共創のスキル、アイデアの考え方について学び、今後の活動の発展に寄与するための講座を開催した。また、各講座では参加者同士のネットワークづくりも積極的に行い、コロナ禍でも意欲的な参加者とともに学び、新たな関係づくりや連携づくりが実現した。

(※各講座の内容については、別途レポートを参照)

公開講座#1

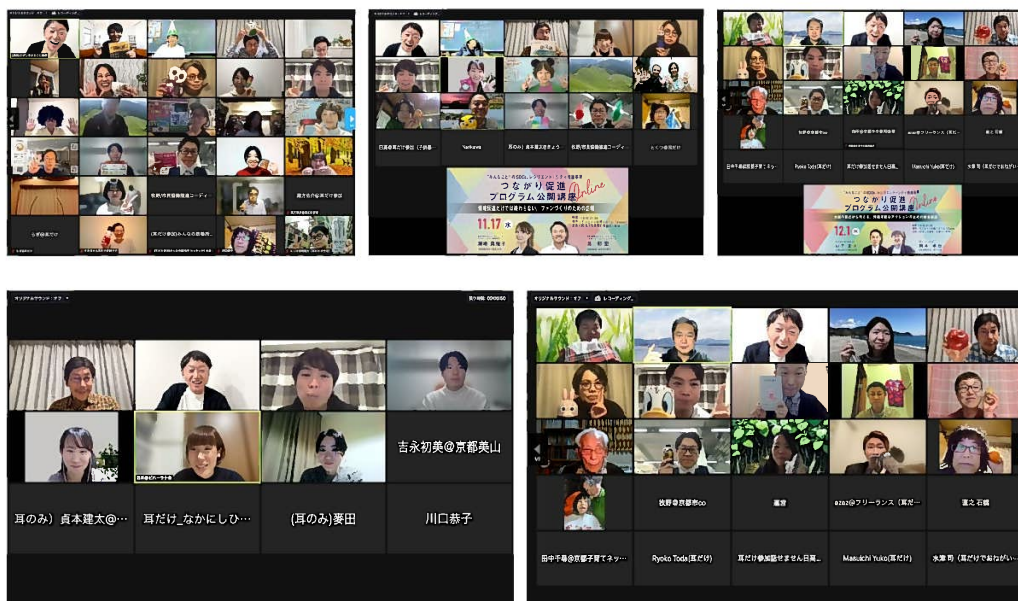
<https://note.com/machigoto/n/n97133ca69331>

公開講座#2

<https://note.com/machigoto/n/nb923e74faf09>

公開講座#3

<https://note.com/machigoto/n/neba80829048d>



イ グループセッション型プログラム

多様なセクター（まちづくり団体，企業人，行政職員，大学関係者等）のメンバーを募集し、全8回のセクターを超えて価値を創造するためのセッションをオンライン会議システム zoomを利用して実施した。参加登録数は42名（アドバイザー6名含む）となり，2021年9月から2022年2月までの6ヶ月のプログラムを通じて6つのチームが生まれた。

セクター別の参加者割合は，下記の通りとなった

企業13名 (31%)・まちづくり/NPO 6名 (14%)・行政7名 (17%)・大学8名 (19%)・その他8名 (19%)

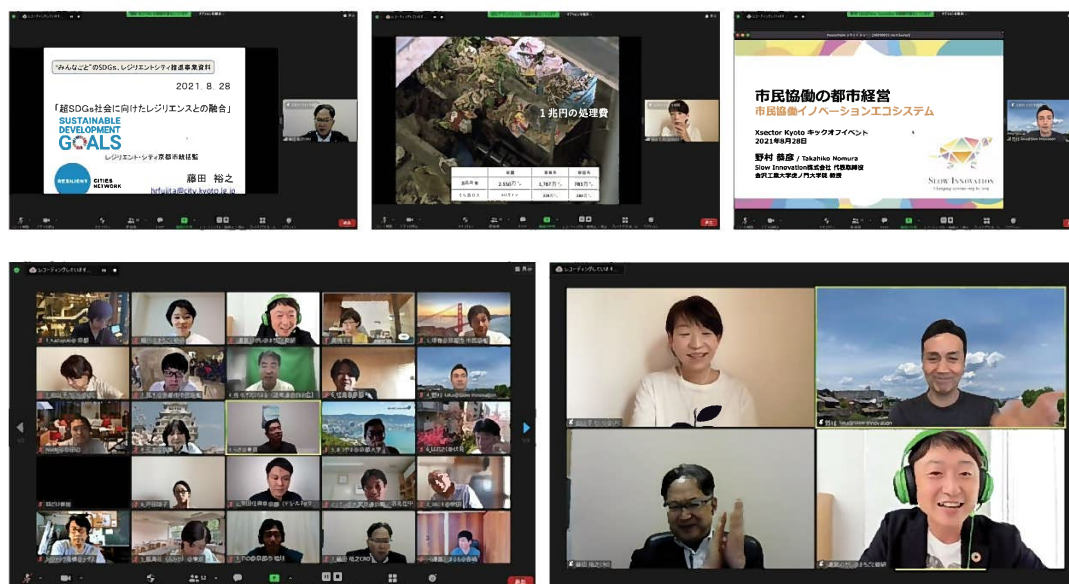
・プロジェクトは下記の通り

	チーム名	テーマ 起案者	プロジェクト名	取組	チームメンバー
1	チームゆるつな	中村志子	コンポストから広がる 循環ライフ	コンポスト作り 循環型の取組の 実験と紹介	井上良子、龍田春奈 戸田涼子、中村伊都子 福山和紀、岩田竜之介 荒木秀次
2	KYOTO CAFELOVER's	野村恭彦	つなげる場をつなげる	地域を愛する カフェオーナーや カフェ好きの紹介 とネットワーク化	上田未来、奥野智帆 川崎勇人、熊切英司 西谷尚起、十塚悠 坂巻譲理、
3	Parenting Career (ペアキャリア)	田中千尋	子育て＝キャリアだ！	子育てで得られる スキルの言語化と 採用場面での活用 方法の検討	鮫島輝美、鼓谷直紀 伊藤圭之
4	自転車屋台 チーム	中西隆夫	カーゴバイクで小さな チャレンジだプロジェ クト	自転車屋台を使っ た若者(大学生)の 小商い実践のサポ ート	小川 清誠、仲隆介 三枝正侑、
5	伏見 プレーパーク	貞本建太	地域に愛される 公園プロジェクト	伏見南部公園を活 用したプレイスメ イキングの実践と 検証	荻谷みち代、川口恭子 晴佐久浩司、
6	あっちこっち学 校-つなげる教 室-	西村奈美	あっちこっち学校-つ なげる教室-	不登校生徒への学 びや出会いの機会 づくりの企画運営	奥野智帆、杉田博幸 山手結菜、横光明子 芳村七海、荒木秀次

▶キックオフイベント「セクターを越えた繋がりが生み出すインパクトとは」

キックオフでは、これまでの取組を振り返るとともに、新たな視点として「SDGsを身近に」をキーワードに京都市内で取り組まれる様々な活動事例の紹介や、LFCコンポストを利用した自宅でもできる身近な活動の紹介などをゲストトークを通じて実施した。また、野村氏からは市民協働をと通じて起こる都市の変化や現在の京都市の状況をふまえた仮説を提案いただき、活動を始めていくことの必要性についてお話いただいた。

クロストークでは、セクターを超えた具体的な連携を紹介いただいたり、各セクターが持つ強みを生かした取組により、社会にとってより良いことが起こるだけでなく、自社や団体にとってもメリットがある視点などもお話しいただき、京都における共創の取組が始まっていく機運を共有できた。後半は、参加者同士の対話の場面もつくりながら、自分たちが実践していきたいことやできそうなアクションについて意見交換をする時間となった。



日時	テーマ / 会場	講師	参加数/ 申込数
8/22	X Cross Sector Kyoto 2021キックオフ 「変化の時代における、新たな価値の共創とは」 会場/オンライン会議システムzoom	野村 恭彦 / Nomura Takahiko Slow Innovation 株式会社 代表取締役 たいら由以子 / Taira Yuiko ローカルフードサイクリング(株)代表取締役 藤田 裕之 / Fujita Hiroyuki レジリエント・シティ京都市統括監	57名 /72名

▶グループセッションプログラムの実施内容

令和3年度のグループセッションプログラムでは、昨年度同様に参加者同士の関係性づくりをベースに行いながら、地域や社会における課題について知り、学ぶとともに、互いの持つリソースを活かし、どのような解決方法があるかを探るワークショッププログラムを実施した。プログラムの構成としては「理解、創造、実現」の3つのステップを用意し、中間報告や活動報告を準備しながら、徐々にステップアップしていくように準備を行った。また、昨年度の振り返りやコロナ禍の影響もあり、予定していたプログラムを変更し、参加者同士の接点数を増やす目的でプログラム回数を増やし実施した。

また、各チームの事業を発展させていくために事業アドバイザーを招待し、それぞれのチーム活動について共創や連携の視点からアドバイス頂いた。

＜グループセッションプログラムの進行スケジュール＞



＜グループセッションプログラムのアドバイザー＞

第3期アドバイザーのご紹介



大槻 彦吾 / Otuki Gengo
株式会社ヒューマンフォーラム
人材育成部 部長



山本 安佳里 / Yamamoto Akari
AKARI DESIGN / デザイナー
プランナー / コドモト 代表



福井 瞳 / Fukui Hitomi
Sparkle 代表
公益財団法人滋賀県産業支援プラザ
BizBaseコラボ21コミュニティマネージャー



並木 州太郎 / Namiki Shutaro
龍谷大学ユネスコソーシャルビジネス
リサーチセンター
京都大学経営管理大学院・研究員



田村 篤史 / Tamura Atsushi
株式会社ツナグム 代表取締役
株式会社Q's 代表取締役



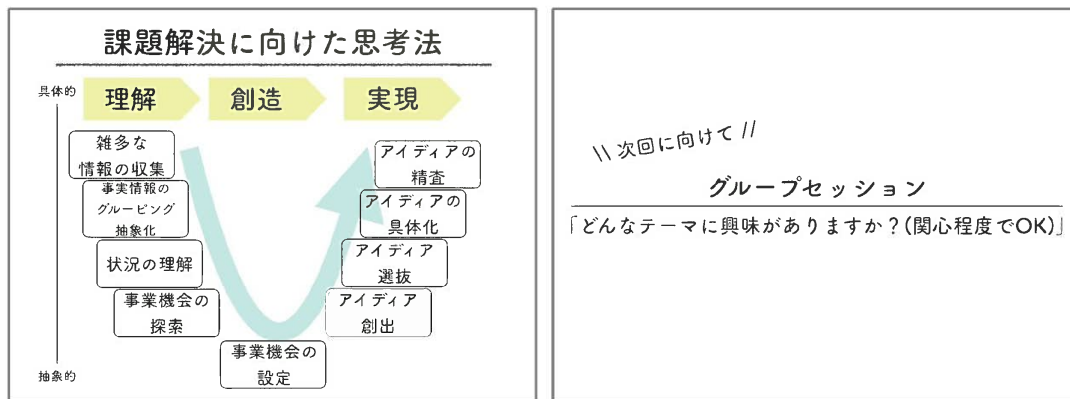
新門 政志 / Shinkado Masashi
京都中央信用金庫
戦略企画部

第1回グループセッションプログラム / 9.8(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/37名

- 共創の実現に向けた思考法とは

<プログラム概要>

第1回では、過去の実組事例の紹介や、主催である京都市の主旨について紹介した後に、参加メンバー同士の顔合わせを中心に実施した。後半では、参加者同士で現在関心のあるテーマや事例について共有してもらい、自身の取り組みたい内容について検討してもらう機会とした。

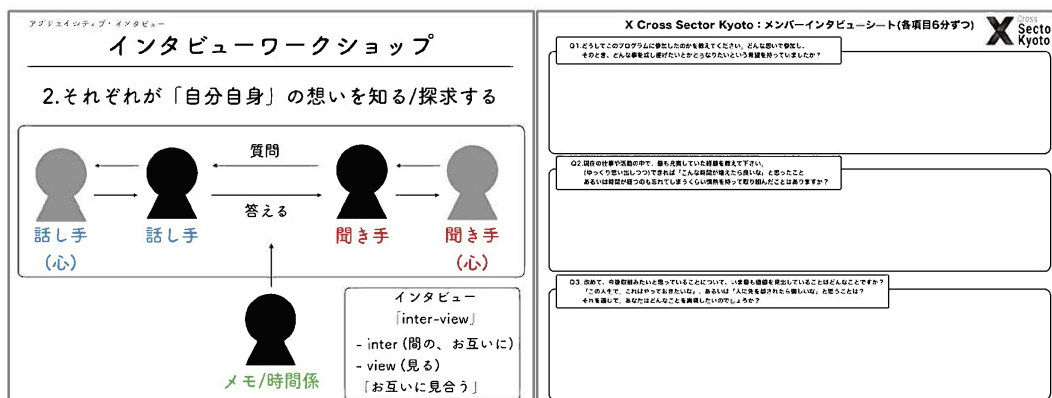


第2回グループセッションプログラム / 9.15(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/36名

- 先進的な事例 / 取り組むテーマの共有

<プログラム概要>

第2回では、参加者がお互いに相互インタビューを行うワークショップを実践することで、互いの取り組みたいテーマの共有を行うとともに、自身の考えていることの言語化を行った。内容は、プログラムへの参加理由や、現在取り組んでいることの共有、今後実現したいことについてインタビューを行い、それぞれのリソースと取り組みたいテーマの共有が促進されるよう工夫した。



第3回グループセッションプログラム / 9.22(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/33名

ー プログラムを通じて実現したいことは？

＜プログラム概要＞

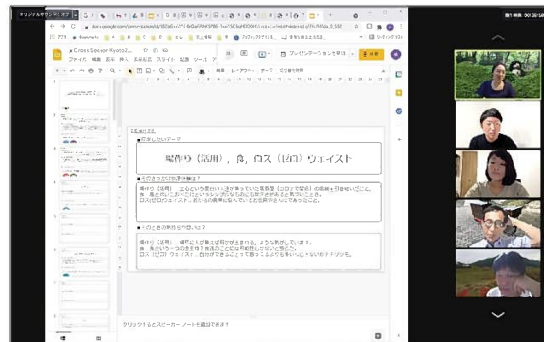
第3回では、前回のプログラムをふまえて自身が「やりたいこと」をメンバー間で相談する「プロアクションカフェ」を行い、チームづくりの前段階としてどんなことが実践できそうかや、どんな協力が周りから得られそうかを検討する時間をつくった。また、次回にチームづくりを行うことを伝え、改めて自身がこのプログラムで実現したいことについて考えてもらうように伝えた。

プロアクション・カフェ
あなたが実現したい未来を語ろう

1人10分 × 4回 <目的> 話し手のイメージを具体化する

話し手 **聞き手 (メモ/時間係)**

- ①話し手から3分程度で書いたことを共有してみましょう
- ②聞き手は、2つの観点から話し手に質問を投げかけましょう
(「アドバイス」ではなく、質問を投げかけましょう)
- 相手が本当に大事にしている(大事にしたい)ことは何か？
- その実現のために必要なことは何か？どんな一歩が必要？
- ③1分前になったら、話し手からお礼と感想を一言！



第4回グループセッションプログラム / 9.29(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/33名

ー 取り組むテーマとチームづくり

＜プログラム概要＞

第4回では、チームづくりを前提とした「テーマオーナー」募集を行い、他メンバーは自身が参加してみたい活動テーマに合流してもらう形で活動を進めた。各チームが出来上がり、メンバー同士の簡単な顔合わせを行うとともに、今後3週間に実施してきた欲しいことなどを共有した。

プロアクション・インタビュー
インタビューワークショップ

2.それぞれが「自分自身」の想いを知る/探求する

話し手 (心) **聞き手 (心)**

質問 → 答える

メモ/時間係

インタビュー [inter-view]
- inter (問の、お互いに)
- view (見る)
「お互いに見合う」

次回までのアクション

- ・まずはメンバー同士の顔合わせとテーマの共有を
- ・実現したい未来像や起こしたい変化の共有
- ・取り組むテーマについてのアイデア出し
(方法は自由にOK。参考用FMTは共有します)

**MTG日程が決まったら、事務局に教えてください
(slack もしくはメール等でもOKです)**

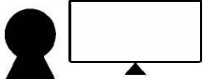
第5回グループセッションプログラム / 10.20(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/27名
 - 活動テーマの共有と、課題設定の手法について

<プログラム概要>

第5回では、3週間で考えてきたチーム活動についての共有を行っていただき、他メンバーからはプレゼンテーションを聞いてみての感想や質問についてフィードバックを行ってもらった。また、アドバイザーから多様なメンバーの連携や協力を得るための視点についてレクチャーを実施した。セッション終了後には、課題解決のアイディア手法の共有としてソーシャルデザインに関する考え方について情報提供を行った

各チームの活動テーマの共有

<目的> 取り組みたいテーマの共有と整理



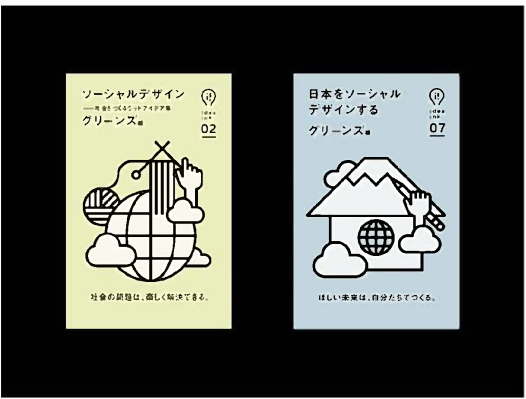
- ・活動の目的
- ・活動内容のイメージ

チームによるプレゼン 5分程度



<1人ずつチャットで投稿>

- ・プレゼンを聞いての感想(質問)
- ・協力できることの提案/共有



第6回グループセッションプログラム / 11.10(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/30名
 - 中間報告 / アドバイザーによるフィードバック

<プログラム概要>

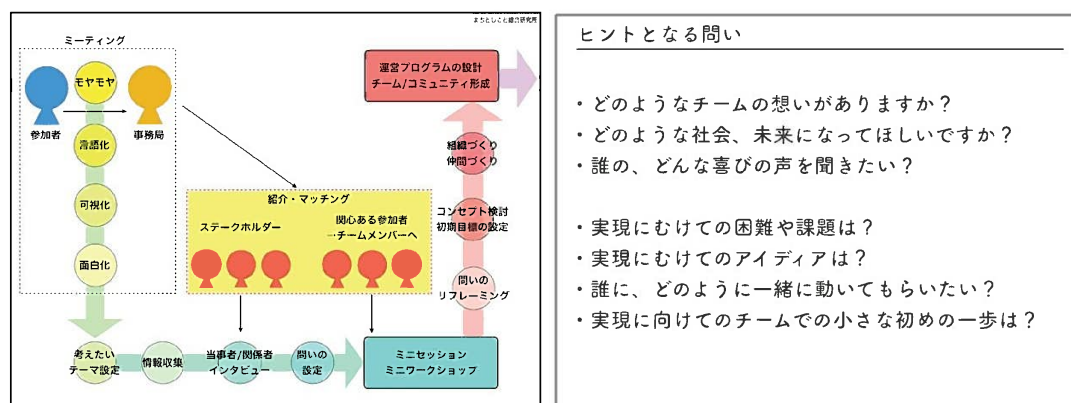
第6回では、中間報告として現時点のチーム内でまとめた「実現したい未来」「解決したい課題」「アクションプラン」についてプレゼンテーションを行ってもらった。その上で、他メンバーからのフィードバックを送りあい、ブラッシュアップを実施した。また、今後の活動として、現場での当事者との対話を進めることでより具体的な活動のアイディア発想に触れるよう促した。

\\ Session 6 // 中間発表 アドバイザーによるフィードバック (各チーム7分 / コメント記入2分)	社会問題の現場で当事者との対話へ 行動して人に投げかける → 反応が得られる アイデアがイマイチ → 新しい発見はある フィードバックを貰える → 別のアプローチも考えられる 複数の人に投げかける → Think Big / 発想を広げる
---	---

第7回グループセッションプログラム / 11.24(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/31名
 - チームの取り組みを拡げる

<プログラム概要>

第7回では、チームミーティングをメインに行ってもらいながら、それぞれのMTGを運営、アドバイザーが回りながらサポートしていった。また、活動を継続的に実践していくために必要な視点として、課題解決のプロジェクトとして目指すアウトプットや、他者を巻き込んでいくプロセスについても紹介を行い、アクションプランのブラッシュアップを実施した。



第8回グループセッションプログラム / 12.15(水)20:00-21:30 @zoom 参加者数/32名+一般参加10名
 - 多様なレビューアによるフィードバック

<プログラム概要>

第8回では、3ヶ月のセッションを経て考えた6つのチームのアクションプランのプレゼンテーションを実施した。また、当日は一般参加者10名も交えての開催となり、様々な視点からのフィードバックをもらうとともに、新たな応援者の獲得を実現した。プロジェクトに対しては、参加したアドバイザーからもそれぞれの活動に対してアドバイスをもらい、これからの活動の発展のための機会となった。



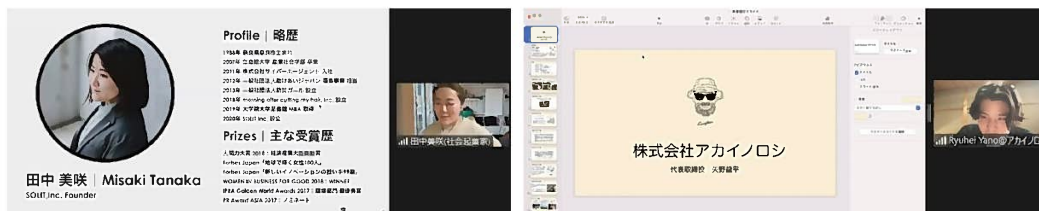
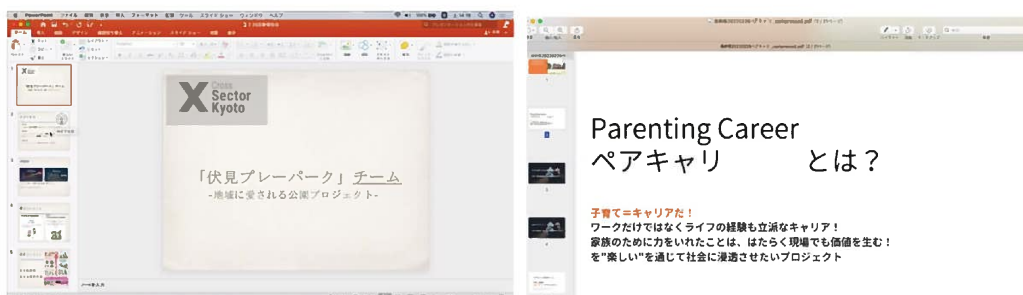
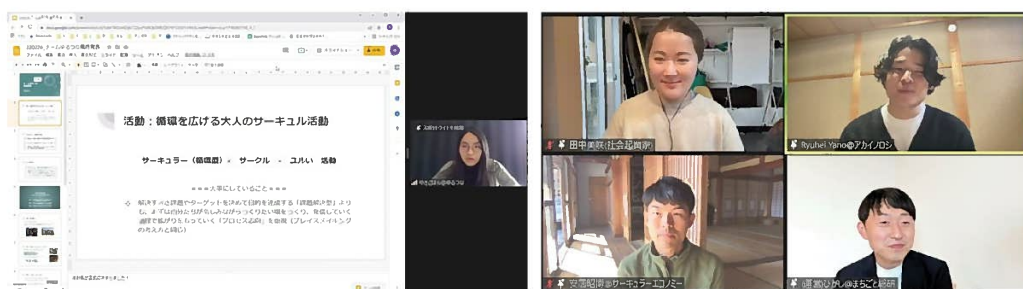
X Cross Sector Kyoto OPEN DAY online 2.26(土)13:00-16:30 @zoom 参加者数/70名

<プログラム概要>

前半では、セッションプログラム参加者による活動報告の機会をつくり、12月以降の2ヶ月半の実践について共有いただいた。一般参加者からはチャット等でのフィードバックと、少人数でのグループセッションを行い、活動に対する意見交換や繋がりづくりを実施した。

後半では、社会起業家として活動するゲストによるトーク&セッションを開催した。社会課題に取り組むにあたってのSDGsや持続可能な事業の考え方や、具体的な活動のプロセスについて伺った。その際に、身近な方々の抱える課題に目を向けることや、それぞれの主体が関わる課題が何かを可視化することの必要性についても共有いただいた。そうしたこともふまえ、参加者とともに多様なセクターによる連携した事業の実現に必要なポイントについて学ぶことができた。

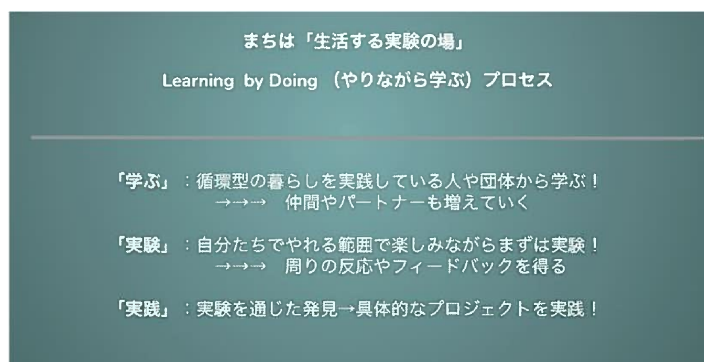
ゲストトーク後には、参加者同士の対話の時間をつくり、互いに学んだことや発見について共有を行い、参加者同士のつながりづくりも実施した。



▶各プロジェクトチームの提案内容<概略>

1, チームゆるつな

「循環を広げる大人のサーキュル活動」をテーマに、循環型の取組を日常生活のなかで、無理なく習慣化できる多様な選択肢をつくることを目的としたプロジェクト。活動を通じて体験者が、気軽に活動したり話したりすることを促し、循環意識が高まり習慣付くような仕掛けづくりを目指し活動。期間中には、農業体験や自宅でのコンポスト活用として「キエーロ」を作成し、自身の暮らしにあった選択肢を選ぶ実験を行った。今後は、このコンポストづくりをワークショップとして拡げ、コンポストMAPのような発信にも取り組んでいく



2, KYOTO CAFELOVER's

京都のカフェを敬意を持って紹介しあう「京都のカフェを愛する人たち」のためのオンラインコミュニティ。参加するメンバーひとりひとりが「カフェ利用の自分自身の美学」を宣言するとともに、オンライン上で自身の紹介したいカフェを共有し合う取組を展開。情報共有以外にも、カフェの記事作成やツアー、地域プロジェクトの実施など関わり方の選択肢を設けることで、様々な方が自分のペースと意思で参加できる仕組みをつくり、多様な参加者を獲得していく工夫にも取り組んでいる。



3, Parenting Career

仕事の経験だけでなく、暮らしのなかで得られる経験も「キャリア」であることを浸透させ、家族のために力を入れたことが社会で評価されることを目指すプロジェクト。子育て経験の期間をキャリアのブランクと捉えていることに注目し、子育てで得られる経験を言語化し、社会スキルとしてどのように応用していけるかを検証し、企業の採用面接等でその経験をPRとして語ることができるような価値観の情勢に取り組んでいる。今後、それらをゲームコンテンツ化し社会に広く体験してもらえる機会づくりにチャレンジしている



4, 自転車屋台チーム

公園などのまちなかの様々なスペースを活用して、サーキュラーエコノミーにも寄与する自転車屋台(カーゴバイク)を利用し、学生や社会人の「お店をしたい!」という小さなチャレンジを支援するプロジェクト。空き店舗やスペースが増える中で、新たなお店を始めたいが大きなリスクを伴うことによりアクションできていない若者を中心に、自身のやってみたいを小さく始めるサポートを検討。メンバーの持つ大学生とのネットワークを活かし、自転車を利用したプログラム実施に取り組んでいる。



5、伏見プレーパーク

プレーパークづくりを通して、ひとりひとりの多様性が尊重される社会づくりに取り組むプロジェクト。入り口として、子どもが尊重される機会として「遊び」に注目し、多様な世代が話し合いや活動を通じて、お互いを知り関係性づくりを行いながら、認め合える環境づくりに取り組んでいる。活動では「プレイスメイキング」の手法を用いて、伏見南部公園を舞台に1日プレーパークの企画を様々な主体と連携を行い実現。今後も、同様の企画を実施するとともに都市型プレーパークのモデルづくりに取り組んでいる。



6、あっちこっち学校-つながる教室

好奇心をもとに、世界のさまざまな場所や人、出来事と繋がれる学びに溢れた、不登校もそうでない子も通える未来の学校づくりのプロジェクト。小中学生の不登校が年々増えていくなかで、学校へ戻るきっかけづくりが足りていないことをベースに、点在する不登校児の小規模な居場所をつなぎ、新しい出会いやつながりが生まれる1日体験の学校づくりに取り組んでいる。活動期間中には、商店街の空きスペースを利用した集いの場作りやオンラインでの対話の場作りなどを実現。今後は、賛同者を募りながら「あっちこっち学校」の実現に取り組む



(2)「つながり促進プログラム」の実施に関する広報

各プログラムを実施するにあたっては、事前の情報公開を行いチラシや SNS による発信を行い、幅広く活動の認知が広がるよう努めた。また、今期はオンラインでの開催が多かったこともあり、各イベントやセッション終了後にはイベントレポートを作成することで、地域・まちづくり活動に関心のある方向けに PR を実施した。

▶Facebook ページ「Xsector Kyoto -”みんなごと”のまちづくり推進事業」



▶各種イベントページ(Facebook/Peatix)デザイン



▶ 各チラシ
ー キックオフイベント、公開講座、OPENDAY

Cross Sector Kyoto Online Kick Off
2021.8.28 Sat
13:00-15:30 12:45 開場 開催方法: オンライン会議システム「Zoom」

**「みんなと」のSDGs、レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラム キックオフ**

「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
野村 恭彦 (TAKAHIKO NOMURA)
「私たちの課題をこなしたいアクションや貢献」
たいら 由子 (YUKO TAIRA)
「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
藤田 裕之 (FUJITA YOSHIYUKI)

Kick Off Schedule
2021.8.28 Sat
13:45 開場
13:50 挨拶
14:15 基調講演
14:30 基調講演
14:45 基調講演
15:15 閉会

グループセッションプログラム

Event Guest
野村 恭彦 (TAKAHIKO NOMURA)
たいら 由子 (YUKO TAIRA)
藤田 裕之 (FUJITA YOSHIYUKI)

**「みんなと」のSDGs、レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラム 公開講座**
2021.8.28 Sat
13:00-15:30 12:45 開場 開催方法: オンライン会議システム「Zoom」

「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
高橋 博樹 (TAKAHASHI TAKASHI)
「私たちの課題をこなしたいアクションや貢献」
吉野 祐史 (YOSHINO YOSHIYUKI)
「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
潮崎 真知子 (MACHIZAKI MAKIKO)
島 彰宏 (SHIMA AKAHIRO)

**「みんなと」のSDGs、レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラムとは**
2021.8.28 Sat
13:00-15:30 12:45 開場 開催方法: オンライン会議システム「Zoom」

「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
高橋 博樹 (TAKAHASHI TAKASHI)
「私たちの課題をこなしたいアクションや貢献」
吉野 祐史 (YOSHINO YOSHIYUKI)
「文化の時代に生きる、新たな価値の創出とは」
潮崎 真知子 (MACHIZAKI MAKIKO)
島 彰宏 (SHIMA AKAHIRO)

Cross Sector Kyoto OPEN DAY Online
2022.2.26 Sat
13:00-16:30 12:45 開場 開催方法: オンライン会議システム「Zoom」

**「みんなと」のSDGs、レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラム Cross Sector Kyoto OPEN DAY online**

矢野 龍平 (YANO RYŮHEI)
田中 美咲 (TANAKA MISAKI)

Cross Sector Kyoto OPEN DAY Online
2022.2.26 Sat
13:00-16:30 12:45 開場 開催方法: オンライン会議システム「Zoom」

**「みんなと」のSDGs、レジリエント・シティ推進事業
つながり促進プログラムとは**

田中 美咲 (TANAKA MISAKI)
矢野 龍平 (YANO RYŮHEI)

3. 「つながり促進プログラム」の提供に係る窓口及びコーディネート業務

京都市やアドバイザー等との打ち合わせや会議は随時対面やメール、Zoom(オンライン会議システム)で実施した。グループセッションプログラムの各チームとは会議やワークショップの実施を行うにあたり、連携先の紹介やプログラム内容の相談にのりながら、コーディネートなどを実施した。その他、上記実施に必要な会議用資料作成、説明等を実施した。

<つながり促進プログラムを実施した効果、事業の課題、今後の展開等について>

一般参加型プログラムでは、市民活動のヒントとなるテーマを用いることで、既に活動を始めており課題を感じる方から、これから何かを始めていきたい人まで、幅広く参加いただくことができた。また、オンラインでの開催のメリットを活かし、各地で開催される取組についてお話を伺うことができたり、遠方から京都市での取組に関心を持って参加いただけた。

各回では、参加者同士の対話の場をもうけることで、それぞれの取組を共有する機会が取れたり、新たな悩みの共有をいただくなど、共創を育んでいくために必要な視点や情報を共有できる時間となった。

グループセッション型プログラムでは、昨年度と同様のプログラムを用いながら、参加者同士の交流の接点を増やし、チームとしてのまとまりや連携を促していくことができた。また、チーム活動に対してはアドバイザーの協力のもとで、進捗確認や事業の悩み相談などを伺いながらサポートを行うことで、一定の取組にまで発展させることができた。各チーム活動についても、自分たちでまずは考え行動を行うとともに、多様な方々と連携をして活動を発展させていくプロセスを経ることで、プログラム参加者以外との新たな関係性づくりにも取り組めた。終了後も、活動を継続するチームが多く、今後の発展も期待が持てるかたちとなった。

全体を通じて、新たな参加者を獲得することで、社会課題の解決やSDGsの実現に向けて、他者との連携や共創が必要なことを伝えることができたとともに、具体的な実践を伴い、その難しさを経験しながらも、自分たちが実現していきたいことや、取り組んでいきたい活動を見据えることができた。一方で、課題の解決までの道のりは長いため、今後も継続的なフォローアップを行う仕組みなど、私たちも検討をしていく必要性を感じた。

最後に、3年目の取組となった今年度で、オンラインを利用した一定のプログラム構築ができたこともあり、今後はオフラインとの相互利用をメインとした取組を構築していくことができれば、これまでオンラインでの取組を苦手としていた人たちを巻き込むことができ、より拡がりを実現していけそうである。